

大迫山の戦争遺跡の歴史

大迫山の戦争遺跡ができたのは1940年ころ「昭和時代」です。



大迫山の戦争遺跡は太平洋戦争(1941~1945年)にあった戦争で使われたものです。その当時に使われたものの「設置跡」が現代にも残っています。

板城小学校4年 HPチーム

戦争遺跡の説明

右の写真は、戦争遺跡を撮った写真です。

どのように戦争遺跡ができたかという、その当時の東板城国民小学校（現在の板城小学校）の子どもたちが軍の人たちを手伝い、戦争で使う道具を置き、その跡がいまも残り戦争遺跡になっています。



どのように使われたか

※この画像は実際に大迫山にあったものとは違います。



大迫山の戦争遺跡は敵機発見場所として使われていました。また軍事的な防衛、監視施設として使われていました。

感想

僕たちが大迫山に登って一番心に残っていることは、歴史を知れたことです。最初は普通の山だと思っていたけど、大迫山には戦争遺跡という戦争で使われたものが置かれていた跡があって、とても奥が深い山だと知りました。読んでくださった方へ、ぼくたちは大迫山に登って歴史を学びました。ぜひ読んでくださった方も大迫山に登ってみてください。

